

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

(1) 大学・学科の設置理念

① 大学

関東学院大学は、明治17（1884）年に横浜山手に創立された「横浜バプテスト神学校」（のちの日本バプテスト神学校）を源流として、今日に至る140年の伝統の上に立っている。本学の教育理念は、「キリスト教に基づく学校教育を行うこと」を目的とし、キリスト教に基づく人格の陶冶を旨に、教育基本法に則り、学術の理論及び応用を教授することである。横浜バプテスト神学校初代校長A. A. ベンネットの墓碑銘“He lived to serve”と、関東学院初代学院長坂田祐によって選定された校訓「人になれ 奉仕せよ」は、人間であることを深く自覚し、人間らしい人間になることを教育の基本命題にしたものであり、人間らしい人間とは、他者、隣人、弱者に愛をもって奉仕する者になることを説いている。本学院の教育理念を示すこの校訓は、今日の日本の社会、とりわけ、教育の現場が抱えている課題に取り組む際の基本姿勢を十分に担い得るものと確信している。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

ア. 理工学部理工学科数物理学系

本申請により認定を受けようとする理工学部理工学科数物理学系は、多様な学術分野を擁する理工学部において、自然科学のもっとも基本的な学問である数学と物理学、さらに情報学の3分野について学修・探究する学系として、2013年度に設置された。設置当時すでに理工学部には化学・生物学・電気電子や機械、情報、土木といった工学分野の学系が存在していたが、近年とくにICT関連分野の技術発展が急速に進む中で、その背景に存在する数学と物理学の重要性が増していた。両学問を並行して学ぶことで、自然現象の本質を捉え課題を論理的に解決する能力を持つ人材を育成することが数物理学系の基本理念である。

広く学術分野を見渡した時、一般に社会学や心理学等の人文科学分野は、人類が独自に築き上げた社会の中でこそ成立する学問である。それに対して自然科学分野は人類の生息範囲に限らず世界に遍く適用されるものである。実際、生物学は動植物や菌類など全ての生命を探究する。さらに化学は生命だけでなく物質の源となる分子やその反応が研究対象である。しかし分子や高分子が存在するのは地球上あるいは特殊な惑星ないし衛星の環境に限られる。それに対し物理学は、宇宙の（ごくかぎられた例外を除き）全ての空間と時間において成り立つ自然法則がその研究対象であり、その点において最も広汎で基本的な学問と言える。さらに数学は、ガリレオ・ガリレイが「宇宙という書物は数学の言葉で書かれている」といった通り、我々が存在する宇宙を理解するために必要不可欠な基本言語である。その意味において数学と物理学という2つの分野は、あらゆる学問の中で最も「世界の多様性と多元性を寛容と協調の信念をもって咀嚼」することが出来る分野であると言えよう。

イ. 情報学部情報学科

情報学部情報学科は、現代社会が直面する多様で複雑な課題に対応するため、数理・AI・データサイエンスをはじめとする専門知識を基盤とし、社会連携教育を通じて理論と実践を結びつける力を備えた人材を育成することを目的としている。当学科では、情報工学、数理・人工知能、情報メディア、医療・人間情報学の4つの分野を体系的に学ぶことで、実社会で即戦力となる技術力と応用力を身につけることを目指している。

当学科の理念は、専門知識の修得に加え、社会的責任と倫理観を備えた実践的な課題解決力

の育成にある。特に社会連携教育を重視し、学生が企業や団体と協働しながら現実社会の課題に取り組むことで、課題発見と解決のプロセスを学び、社会に貢献できる力を養う。具体的には、地域課題をテーマとしたPBLや企業との共同研究を実施している。これにより、学生は技術や知識を単なる学問としてではなく、実社会の課題を解決するためのツールとして活用する意識を育む。また、情報学部内だけでなく、他学部の副専攻を履修することも可能であり、分野横断的な学びを通じて、多様な視点と柔軟な発想を持つ創造的な人材となることを目指している。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）では、情報学の基礎から応用に至る知識と技能を修得し、論理的かつ倫理的な判断力を持ち、他者と協働して課題を解決する能力を備えた卒業生の育成を目標としている。この方針を達成するために、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）では、基礎的な学びから発展的な学びへ段階的に進むカリキュラムを編成し、特に社会連携教育を通じた実践的な学びを重視している。連携企業や団体による寄付講座、プロジェクト型学習（PBL）、卒業研究での共同研究など、学生が実社会と直接関わる機会を積極的に提供している。

さらに、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）では、情報学分野を学ぶための基礎学力を備え、社会課題解決への意欲と明確な目的意識を持つ学生を受け入れることを重視している。数学や英語の基礎力、論理的な思考力に加え、社会貢献の意識や主体的な学びへの姿勢も評価している。

情報学部情報学科は、これらの教育理念と方針を通じて、専門知識と倫理観を備え、社会連携を通じた実践力を発揮し、持続可能な社会の構築に寄与する人材を育成することを基本理念としている。

（2）教員養成の目標・計画

①大学

本学の建学の精神は、キリスト教に基づく校訓「人になれ 奉仕せよ」に示されるように、「人」であることを深く自覚し、他者・隣人に愛を持って奉仕する者となることを説くもので、現代社会において最も大切なものを求め続けることである。その精神は教員養成に対する理念・構想にも通じ、教員として、或いは教育に携わる者として揺るぎない価値観のひとつとして十分に耐え得るものと確信している。本学では10万人を超える卒業生が各界で活躍しており、教育界へも数多くの人材を輩出している。そうした大学としての社会的役割に加え、課程認定大学に求められる役割も鑑みて、教員養成の理念を実現し、本学が目指す教師像「愛と奉仕の精神を尊び、その理念に裏打ちされた幅広い教養と高度な専門知識・技能を合わせ持つ教員」を養成するために全学的な取り組みを行っている。

本学は幼稚園、小学校、中学校、高等学校、栄養各教諭の教職課程を有し、複数の学科間の共同により課程を運営していることから、各課程の中心となり体系的なカリキュラムを担保する組織として「教職支援センター」を設置している。センターには運営委員会を置き、本学の教職課程の水準を維持・向上させていく仕組みを確立するとともに、人格形成と教員養成の目標を明確に示した「KGU教職課程スタンダード」を全学的に策定し、実践力のある教員養成のためのカリキュラム充実に力を注いでいる。

また、地域や学校、教育委員会との連携に加え、本学の系列校や同窓会教員部会（教職に就いている卒業生の会）の協力も得て、教育実習校との提携、実習指導体制の充実を図り、地域社会と一体となって教員を養成することを目指している。教職課程の主担当である「教職担当

専任教員」は各学部教授会にも所属しており、各学部の教務主任、教務委員、また教職課程に関する科目を担当する兼任教員とともに、教職課程と学位プログラムとの連携に努め、教職課程に所属する学生の指導体制を確立している。

これらの全学的体制に基づき、質の高い教員養成を通して、我が国の学校教育の発展に貢献したいと考えている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

ア. 理工学部理工学科数物学系

数物学系における教職課程は、理工学科としての卒業要件のほかに、数物学系が指定する履修規程と教職課程の履修規程に則り学修を進めていく。学位プログラムの履修を通して、理学、工学、情報の専門基礎力が身に付くよう配慮されているほか、数物学系以外の科目について最大16単位までの履修を認めており、教職課程の学生においては免許教科に関連する知識をさらに充実させることができる。教職課程の学生の各学年における目標は以下のとおりである。

〈1年次〉必修科目である「キリスト教学」「フレッシュャーズ 세미나」等の教養科目（導入科目）の履修を通して、教員としての倫理観や公共心を醸成し、理工系学生としての常識、姿勢を学ぶことで、教職に関する科目、教科に関する専門的事項を学ぶ基本姿勢を身に付ける。また、学位プログラムの必修科目である「理工学概論」「KGU情報基礎演習」「フレッシュャーズプロジェクト」の履修を通して理学・工学の共通の基礎知識を修得する。

〈2年次〉教職関連科目の履修を通して、教員に求められる教職の知識や態度を養うと同時に、数物学系が定めた履修システムに則り、学位プログラムとしての専門科目と教職課程の教科に関する専門的事項に関する科目（物理学総論Ⅰ、物理学総論Ⅱなど）の履修を通して、免許教科に関連する専門的な知識を身に付ける。

〈3年次〉教職に関する科目および教科に関する専門的事項に関する科目（物理学実験Ⅰ、物理学実験Ⅱなど）の履修を通して次年度の教育実習に必要な実践的指導力を身に付ける。また学位プログラムにおいては他学系科目の履修システムを利用して、免許教科の更なる専門性の充実を図る。また「教育課程論(カリキュラムマネジメントを含む)」や「教育の方法と技術2」を通じて、情報通信技術を活用した最新のカリキュラム管理能力を養う。

〈4年次〉3年次までに培った知識をもとに教育実習に臨む。実習を通して自己の課題を自覚し、教職実践演習等によって不足した知識、技能を補う。

イ. 情報学部情報学科

高校（情報）の教員を養成するにあたり、生徒が現代社会で必要とされる情報技術の知識とスキルを体系的に学び、それを実生活や将来の進路で活用できる力を育てることのできる教員の育成を目標とする。教員には、情報工学や数理・AI・データサイエンス、情報メディア、医療・人間情報学といった幅広い情報学の分野に精通し、これらの知識を基に教育現場で生徒が必要とするスキルを効果的に教える力が求められる。また、技術の倫理的側面や社会的影響について深い理解を持ち、それを生徒に伝えることで、責任ある情報技術の利用を促す指導ができることも重要である。さらに、分野横断的な視点を持ち、他教科や地域社会との連携を通じて、生徒が情報技術を多面的に学び活用できる教育環境を整備する力も必要である。

このような教員像を実現するため、教員養成プログラムでは情報学の基礎から応用までを体系的に学ぶ基盤を提供する。同時に、教職に必要な教育学や心理学、指導方法論などを段階的に学ぶカリキュラムを組み込むことで、専門的な知識と教育スキルの両方を習得できるようにす

る。これにより、教員候補者は理論と実践の両面でバランスの取れた学びを得ることができる。

また、現代の教育現場に対応するため、ICTスキルと教材開発能力の育成も不可欠である。プログラミング教育やAIの活用、データ分析の指導方法を学び、これらを活用したデジタル教材の作成や教育用ICTツールの効果的な使用法を習得する。また、情報倫理に関する講義を必須科目とし、情報技術の適切な利用やその社会的影響についての議論を深めることで、生徒に対して責任ある情報技術の使い方を指導できる能力を育む。

さらに、他教科や地域社会との連携を推進し、教科横断的なプロジェクトや地域課題の解決を通じて、生徒が情報技術を多角的に学べる環境を構築する。地域社会との協働プロジェクトを通じて、実社会での情報技術の活用例を教育に取り入れ、生徒の学びを実生活に結びつけることのできる能力を育む。

このような取り組みを通じて、情報学部では、高校（情報）の教員として高度な専門知識、実践的な指導力、倫理観、そして協働力を兼ね備えた教育者を育成することを目標としている。これにより、生徒が情報技術の基礎を学び、社会で求められる応用力を身につけることができる教育環境を実現するための教員を輩出することを目指す。

（3）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

ア．理工学部理工学科数物理学系（中一種免（理科）、高一種免（理科））

本学理工学部理工学科は、理学・工学の幅広い知識、共通知識・技能を身に付けた、理学・工学双方の専門分野をもつ職業人、技術者の育成を目標としている。その中において数物理学系の学位プログラムでは、特に数学と物理学に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得するための科目を多数設置しており、これらの科目の多くを中高理科の教科に関する専門的事項としても位置づけている。

数物理学系固有の専門教育を見てみると、素粒子から宇宙までの全てのスケールにおける自然現象を司る物理法則と、その基本記述言語である数学を包括的に学ぶ。この専門教育を通じて獲得した知識と技能は、情報通信技術からバイオまで、あらゆる先端技術の背景に横たわるものである。こうした知識・技能と思考力・判断力を修得した理科教員を養成することにより、社会の目まぐるしい技術進化に適応した人材の育成を支援することができる。よって数物理学系に「理科」の教職課程を設置する意義は大きい。

理工学科の学位プログラムにおいても、1年次から「理工学概論」をはじめとする理科に関する基礎的な科目が必修科目として設置されている。2年次以降では、数物理学系開講の専門基礎科目や専門応用科目により、理科に関連する幅広い知識を身につけさせるよう教育課程を編成している。また、座学、演習、さらに物理学・化学・生物学・地学の実験という授業形態を通して、理科教員としての幅広い知識とより実践的な技術、技能を身に付けることができる教育プログラムとしている。さらに、ESDGs(持続可能な開発のための教育)や教職実地体験といった科目を修めることで、実社会における理科の重要性や社会との強い結びつきを教えることができる実践的な教員を養成するよう配慮した教育編成としている。

以上のことから、数物理学系に、理科の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考える。

イ．情報学部情報学科（高一種免（情報））

情報学部情報学科に情報(高等学校教諭一種免許)の課程を設置することは、現代社会の情報化

の進展や教育の多様化に対応し、生徒が情報技術を基礎から応用まで体系的に学べる環境を整える上で極めて重要な意義がある。情報技術は、社会のあらゆる分野で欠かせない存在となっており、これを理解し活用できる人材の育成は、高校教育の中で重要な役割を果たしている。そのため、情報学部情報学科が持つ専門知識と教育資源を活かし、教員養成を目的とした教職課程を設置することは、社会のニーズに応える有効な手段である。

情報学の教育を担う教員は、単なる技術的なスキルだけでなく、情報技術の社会的意義やその影響を適切に教える能力を備える必要がある。高校（情報）の教職課程を設置することにより、教職課程の履修者が情報工学、数理・AI、データサイエンス、情報メディアといった専門分野を体系的に学ぶだけでなく、それを教育現場で実践することで、生徒に実践的な学びを提供できる力を養うことができる。

近年、ICTの発展は急速であり、これに伴い高校教育にも新たな内容や方法論が求められている。特に、情報倫理、プログラミング的思考やAI技術などの教育は、今後さらに重要性を増すと考えられる。これらを適切に指導できる教員を育成することは、生徒が情報技術を活用して将来の進路を切り拓くための基盤を提供するだけでなく、情報教育の質的向上に貢献する。また、情報技術は利便性を向上させる一方で、プライバシーやセキュリティといった課題も伴う。そのため、高校（情報）の教員は、技術の利用に伴う倫理的側面や社会的影響を生徒に教えることが求められる。情報学部情報学科の教職課程では、技術者倫理や情報社会の課題を扱うカリキュラムを提供し、これを教育現場に適用できる能力を備えた教員を育成することが可能である。

以上の理由から、高校（情報）の教職課程を設置することは、現代社会における情報技術の重要性に対応し、教育現場のニーズに応えるための重要な取り組みといえる。

様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

| | |
|--------------|---|
| 組織名称①： | 教職支援センター運営委員会 |
| 目的①： | 教職課程および教員養成課程（教育学部）に関する事項全般を充実させ、円滑、効果的に運営することを目的に、教員養成に関する教育課程の全学的な組織として、次の事項を協議する。 (1) 教職課程に関する事項 (2) 教員養成課程に関する事項 (3) 大学の自己点検・評価の方針に基づき、センターの事業に係る自己点検・評価、改善及び改革に関する事項 (4) その他、センターの運営に関する事項 |
| 責任者①： | 教職支援センター長（教務部長） |
| 構成員（役職・人数）①： | (1) センター長（教務部長） 1名 (2) 教育学部長 1名 (3) 教職課程主任 1名 (4) 教員養成課程主任 1名 (5) センター長又は教育学部長が指名する者 若干名 |
| 運営方法①： | 委員会はセンター長が招集し、原則として委員全員の出席によって議事を行う。協議の結果、その内容を学長へ報告する。 |

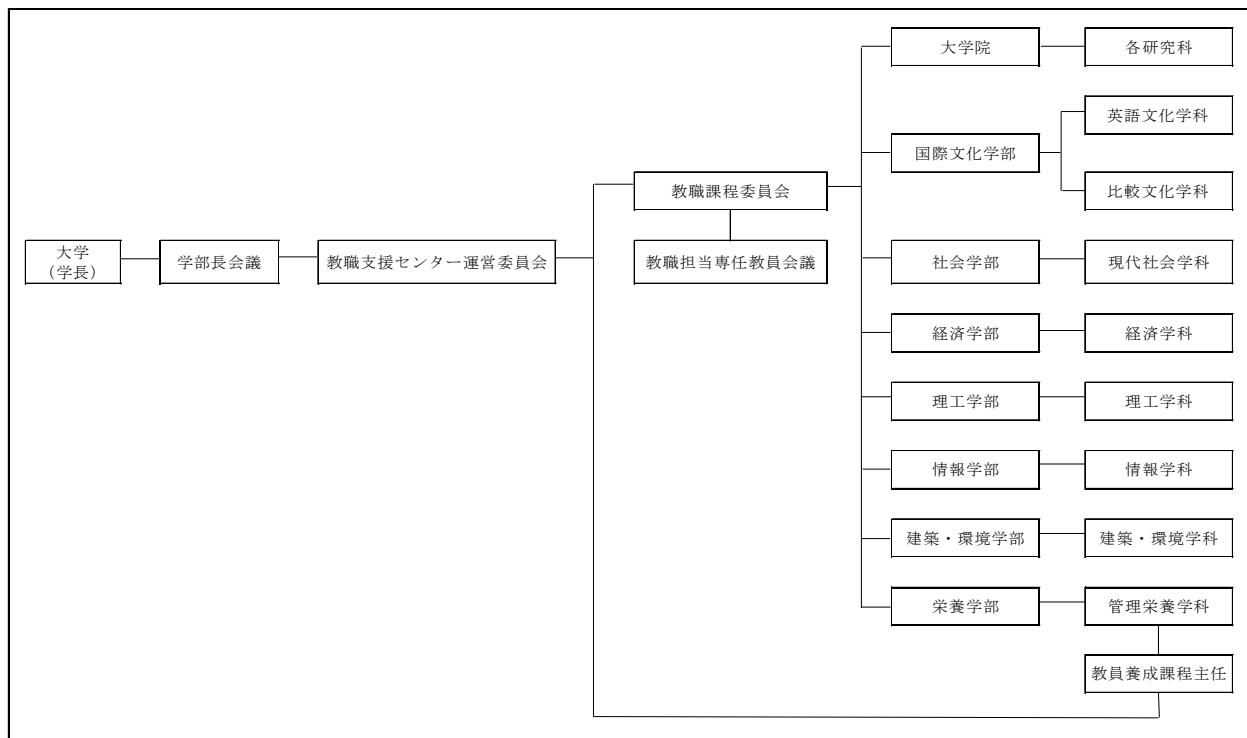
| | |
|--------------|---|
| 組織名称②： | 教職課程委員会 |
| 目的②： | 教職課程の円滑な運営を図ることを目的に、次の事項を審議する。 (1) 開講科目の編成、立案及び担当者に関する事項 (2) 非常勤講師の人事に関する事項 (3) 履修指導に関する事項 (4) 教育実習の指導及び運営に関する事項 (5) 科目等履修生に関する事項 (6) 教職課程に係る自己点検・評価並びに改善及び改革に関する事項 (7) その他、教職課程に関する事項 |
| 責任者②： | 教職課程委員会委員長（教務部長） |
| 構成員（役職・人数）②： | (1) 教職課程委員会委員長（教務部長）1名 (2) 教職課程主任 1名 (3) 教職課程専任教員（教職課程主任を除く）4名 (4) 国際文化学部、社会学部、経済学部、理工学部、情報学部、建築・環境学部及び栄養学部から選出された専任教員各1名 (5) 教務部長が指名する者 若干名 |
| 運営方法②： | 当委員会は、上記「目的」の審議事項を先議するため「教職担当専任教員会議」を設けており、 |

様式第7号イ

上記の教職専門科目担当の専任教員を構成員としている。

委員会は委員長が招集し、定足数は構成員の過半数とする。審議の結果、その内容を学長へ報告する。また、本学の教員養成に関する教育課程の全学的な内容の場合は、全学組織である教職支援センターの運営委員会を通じて学長へ報告する。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



様式第7号イ

II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

| |
|--|
| 教育実習事前指導の一環として、神奈川県、横浜市、川崎市のそれぞれの教育委員会の採用担当者に出向いていただき、教員採用事情のみならず教員に求める能力、資質、態度についての講義を受けている。また、初任者研修のビデオ等を見ることにより、学生は、より明確に現実と向き合うことができる。 |
|--|

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

| |
|--------------------------------|
| 取組名称： よこはま教育実践ボランティア（横浜市教育委員会） |
|--------------------------------|

| |
|------------------------------------|
| 連携先との調整方法： 横浜市教育委員会事務局教職員育成課との直接連絡 |
|------------------------------------|

| |
|---------------------------------------|
| 具体的な内容： 学習支援、遠足補助、運動会補助、宿泊体験補助、部活動支援等 |
|---------------------------------------|

| |
|-------------------------------|
| 取組名称： スクールライフサポーター（神奈川県教育委員会） |
|-------------------------------|

| |
|---|
| 連携先との調整方法： 神奈川県教育委員会子供教育支援課小中学校生徒指導グループとの直接連絡 |
|---|

| |
|-----------------------------------|
| 具体的な内容： 授業の学習支援、教職員の教育活動の補助（小・中）等 |
|-----------------------------------|

| |
|--------------------------------|
| 取組名称： 部活動支援学生ボランティア（神奈川県教育委員会） |
|--------------------------------|

| |
|---|
| 連携先との調整方法： 神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課学校体育指導グループとの直接連絡 |
|---|

| |
|--------------------------------------|
| 具体的な内容： 部活動に関する指導、部活動での指導計画の企画作成への参画 |
|--------------------------------------|

| |
|--|
| 取組名称： 横浜市部活動指導員（NPO 法人日本スポーツ支援振興協会/横浜市教育委員会） |
|--|

| |
|-------------------------|
| 連携先との調整方法： 本学スポーツ振興課が統括 |
|-------------------------|

| |
|---------------------|
| 具体的な内容： 部活動に関する指導全般 |
|---------------------|

| |
|--|
| 取組名称： 私学修学支援センター学生ボランティア（一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会） |
|--|

| |
|--|
| 連携先との調整方法： 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会担当者との直接連絡 |
|--|

| |
|--------------------------------|
| 具体的な内容： 学習指導員の補佐及び授業補助、諸活動の補助等 |
|--------------------------------|

Ⅲ. 教職指導の状況

学年毎にオリエンテーションを行い、履修要綱等を用いて履修指導を行なっている。特に、教育実践に関する科目については、各科目に詳細な履修要件を設定しているため、独自のチェックシートを作成している。学生自身で要件を満たしているかどうかの確認をする際に役立つよう、2年次春学期のオリエンテーションにおいてチェックシートを配付し、その活用方法を説明している。

オリエンテーションに加えて、教務課の窓口で常駐している職員が質疑に応じるほか、教育実践センター、学生支援室でも履修相談に対応している。また、教員もオフィスアワーを設定し学生からの相談に応じている。

教育実習については、近隣校（神奈川県・東京都）において実習を行う学生に対し、訪問指導を行っている。また、遠方の学生については、主に教職担当専任教員がメールや電話で指導・助言を行っている。学部全体として、より充実した指導を行うために可能な限り当該学生のゼミ担当教員も訪問指導を行っており、事情によっては教職担当専任教員ならびに学部選出の教職課程委員会構成員が行う場合もある。なお、訪問指導においては、通常授業もしくは研究授業を参観し学習指導上留意すべき点等を指導する。実習校の実習担当教員を交えてアドバイス、意見交換も行う。また、実習の意義・目的を確認し、教育実習における態度等の指導を行うとともに、学生の精神的なケアと実習に対する動機づけのさらなる向上に努めている。

教育実習の事前指導としては、教科別、校種別（中・高）に現職教員を講師として招き、生徒への接し方の注意点など、現場の経験に基づく指導を受ける機会を設けている。

事後指導としては、各実習校より得たコメントをふまえた上で「教育実習指導2」「教職実践演習（中高）」のカリキュラムの一部として指導を行う。実習校種別（中・高）ごとに少人数クラスに分かれ、実習生の体験報告（口頭発表、再現授業、グループ討議に加えて事後指導参加報告の提出）等から教育実習に対する自己評価と反省を行うとともに、教職課程での学びを振り返り、教職に関する継続した探求を促す。これらの指導にあたっては、指導の効果を高めるために「教育実習手帳」および履修カルテを用いる。加えて、個別指導を行い、学生ひとりひとりへの対応を行っている。また、実習後は、「教育実習の実態調査」ならびに「教育実習申し送り表」の提出を求め、実習の実態を把握し、特に指導・支援の必要な学生に対して個別で対応するとともに、教職課程における指導方法の改善や次年度教育実習生の指導のために利用している。学生が実習を経験してさらに興味を持った教育問題について調査を行い、レポートをまとめ、報告を行う。

教育実習が、学生の実践力と教育についての理解を増し、精神的成長を促す体験となるよう各種指導を行っている。

様式第7号ウ

<理工学部理工学科数物学系> (認定課程:高一種免(理科))

(1)各段階における到達目標

| 履修年次 | | 到達目標 |
|------|------------|--|
| 年次 | 時期 | |
| 1年次 | 1 Semester | 入学時のオリエンテーションにおいて、教職課程の概要を理解する。教職に関する科目では、「教育原理」を学ぶことで教育に関する基礎理論を理解する。学位プログラムにおいては、「フレッシューズ 세미나」等の導入教育科目において、社会的ルールの遵守等を含む倫理的な精神、情報収集の方法やレポートの書き方等、大学での学習に必要なスキルを獲得する。教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の「総合英語(オーラルコミュニケーション)」「KGU情報基礎演習」等において、現代社会におけるコミュニケーションの基礎となる学力や情報整理能力を高め、「健康スポーツ」を通じて、チームワーク、他者との協働、コミュニケーション能力を養う。また、「理工学概論」を履修して、数物学系における包括的な知識を養い、高等学校理科担当教諭として必要な基礎的能力を身に付ける。 |
| | 2 Semester | 各自の専門領域および高等学校理科についての理解を深める。教職に関する科目では、「教職論(チーム学校を含む)」を学ぶことで、教職の意義や教員の役割、チーム学校運営への対応を含む職務内容について理解する。また「学校の制度」を学ぶことを通じて、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項を理解する。特に、学校と地域との連携や学校安全への対応についても把握する。学位プログラムでは、「生物学総論II」「地学総論II」を学ぶ。その他の選択科目を履修して理科の基礎知識を習得する。また、「フレッシューズプロジェクト」において数名でグループをつくり課題に取り組むことで、チームワークの大切さを理解する。 |
| 2年次 | 3 Semester | 教師として必要な基礎的能力を身に付けるとともに、教職に関する応用力を高める。また、各自の専門領域および各分野に関する一般的知識を身に付けるとともに、選択科目において、理科の専門知識と多面的・多角的視野を身に付ける。教職に関する科目においては、「教育心理学」を通して、生徒の心身の発達及び学習の過程を理解する。また、「道徳教育の理論と実践」を学び、道徳や倫理が教育に果たす役割を理解する。さらに「理科教育法I」を学ぶことで、学習指導要領の意義、教科書と副教材の位置づけ、および学習指導要領における高等学校理科の目標と各単元の内容を理解する。学位プログラムでは、「物理学総論I」「化学総論I」「理論電磁気学I」を学び、理科の基本的な考え方や、高等学校教育課程で分かりやすい授業を進めるのに必要となる学識を養成する。 |
| | 4 Semester | 教師として必要な基礎的能力と応用力を高める。また、理科とその教育に関する専門的知識をさらに向上させる。専門科目を学び、専門的知識と多面的・多角的視野を向上させる。教職に関する科目においては、「特別支援教育」を通して、特別の支援を必要とする生徒に対する理解を深める。また、「総合的な学習の時間の指導法」を学び、総合的な探求の時間の指導法を習得する。学位プログラムでは、「物理学総論II」「化学総論II」を通してそれぞれ物理学と化学における諸原理・法則を学び、高等学校教育課程で分かりやすい授業を進めるのに必要となる学識を養成する。教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の「憲法」を通じて日本国憲法の本質を含む幅広い教養を身につける。 |

| | | |
|-----|--------|---|
| 3年次 | 5セメスター | 2年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力を高める。各科目の専門科目と実験科目が多く設置されているので、各自の興味を伸ばし、学ぶことの面白さへの理解を深める。また、専門科目から、理科が社会に対して多大なる貢献をしていることを、一層理解する。「理科教育法2」では、理科教育法1で学修した内容を発展させ、科学的で論理的な思考とは何かを理解し、発問・試験作問できる力を養う。学位プログラムにおける「熱・統計力学I」では熱的現象を巨視的な立場(熱力学)と微視的立場(統計力学)で理解するための基礎的な考え方や方法論を学び、「量子力学I」では現代科学の基礎として物質と原子の世界を理解する。教職に関する科目においては、「教育課程論(カリキュラムマネジメントを含む)」、「教育の方法と技術1」、「生徒指導・進路指導の理論と方法」を通して、現在社会に求められている知識・技能や、その探究に必要な姿勢を生徒たちに身に付けさせるための授業の進め方や指導方法を習得する。また、「教育の方法と技術2(ICTの活用を含む)」を学び、高等学校理科教育における情報通信技術の活用方法を習得する。 |
| | 6セメスター | 2年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力をさらに高める。教職に関する科目として、「教育実習指導1」を通して、教育実習の意義・目的について理解するとともに、教科教育法における模擬授業等を通して、教育実習に向けての授業力を身に付ける。「教育相談(カウンセリングを含む)」「特別活動の理論と実践」では、生徒理解と支援の方法を身に付けるとともに、生徒の心情や行動を理解する力を培う。学位プログラムにおいて「物理学実験II」を学び、物理学で学んだ理論や法則を、実験を通して体験的に習得し、これを確実なものとする。 |
| 4年次 | 7セメスター | 3年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力・応用力の確認をする。教育実習を通して、これまでに学習したことを学校現場で実際に応用・検証することで、教育の目的や教職の意義等についてより深く理解する。また、実際に教育に携わり、生徒と関わる中で、奉仕の精神を持って人や社会への貢献を目指すことが出来るようになる。学位プログラムにおける、「卒業研究I」において、未知のものを追及したり、探求することを実践して、理科指導における思考法や判断力を身につける。 |
| | 8セメスター | 教職課程での学習および教育経験を振り返り、教職に関して継続して探求する態度を身に付ける。教育実習を振り返り、自分の授業技術や教師としての資質等について深く考える態度を身に付ける。また、教育や教師としてのあり方について常に探求する態度を身に付ける。「教育実践演習(中高)」において、4年間での履修状況を踏まえ、教師として必要な知識・技能を修得したことを確認する。さらに、学位プログラムにおける、「卒業研究II」において、1年間のまとめを行うとともに、その成果を発表することで、自らの成果を表現することを身につける。 |

様式第7号ウ

<理工学部理工学科数物系> (認定課程: 中一種免(理科))

(1)各段階における到達目標

| 履修年次 | | 到達目標 |
|------|------------|--|
| 年次 | 時期 | |
| 1年次 | 1 Semester | 入学時のオリエンテーションにおいて、教職課程の概要を理解する。教職に関する科目では、「教育原理」を学ぶことで教育に関する基礎理論を理解する。学位プログラムにおいては、「フレッシューズ 세미나」等の導入教育科目において、社会的ルールの遵守等を含む倫理的な精神、情報収集の方法やレポートの書き方等、大学での学習に必要なスキルを獲得する。教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の「総合英語(オーラルコミュニケーション)」「KGU情報基礎演習」等において、現代社会におけるコミュニケーションの基礎となる学力や情報整理能力を高め、「健康スポーツ」を通じて、チームワーク、他者との協働、コミュニケーション能力を養う。また、「理工学概論」を履修して、数物系における包括的な知識を養い、中学校理科担当教諭として必要な基礎的能力を身に付ける。 |
| | 2 Semester | 各自の専門領域および中学校理科についての理解を深める。教職に関する科目では、「教職論(チーム学校を含む)」を学ぶことで、教職の意義や教員の役割、チーム学校運営への対応を含む職務内容について理解する。また「学校の制度」を学ぶことを通して、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項を理解する。特に、学校と地域との連携や学校安全への対応についても把握する。学位プログラムでは、「化学実験」「生物学総論II」「地学総論II」を学ぶ。その他の選択科目を履修して理科の基礎知識を習得する。また、「フレッシューズプロジェクト」において数名でグループをつくり課題に取り組むことで、チームワークの大切さを理解する。 |
| 2年次 | 3 Semester | 教師として必要な基礎的能力を身に付けるとともに、教職に関する応用力を高める。また、各自の専門領域および各分野に関する一般的知識を身に付けるとともに、選択科目において、理科の専門知識と多面的・多角的視野を身に付ける。教職に関する科目においては、「教育心理学」を通して、生徒の心身の発達及び学習の過程を理解する。また、「道徳教育の理論と実践」を学び、道徳や倫理が教育に果たす役割を理解する。さらに「理科教育法1」を学ぶことで、学習指導要領の意義、教科書と副教材の位置づけ、および学習指導要領における中学校理科の目標と各単元の内容を理解する。学位プログラムでは、「物理学総論I」「化学総論I」を学び、理科の基本的な考え方と、中学校教育課程で分かりやすい授業を進めるのに必要となる学識を養成する。 |
| | 4 Semester | 教師として必要な基礎的能力と応用力を高める。また、理科とその教育に関する専門的知識をさらに向上させる。専門科目を学び、専門的知識と多面的・多角的視野を向上させる。教職に関する科目においては、「特別支援教育」を通して、特別の支援を必要とする生徒に対する理解を深める。また、「総合的な学習の時間の指導法」を学び、総合的な探求の時間の指導法を習得する。学位プログラムでは、「物理学総論II」「化学総論II」を通してそれぞれ物理学と化学における諸原理・法則を学び、中学校教育課程で分かりやすい授業を進めるのに必要となる学識を養成する。教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の「憲法」を通じて日本国憲法の精神を含む幅広い教養を身につける。 |

| | | |
|-----|--------|--|
| 3年次 | 5セメスター | 2年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力を高める。各科目の専門科目と実験科目が多く設置されているので、各自の興味を伸ばし、学ぶことの面白さへの理解を深める。また、専門科目から、理科が社会に対して多大なる貢献をしていることを、一層理解する。「理科教育法2」では、理科教育法1で学修した内容を発展させ、科学的で論理的な思考とは何かを理解し、発問・試験作問できる力を養う。学位プログラムにおける「物理学実験I」「生物学実験」「地学実験」では、それぞれ物理学・生物学・地学で学んだ理論や法則を、実験を通して体験的に習得し、これを確実なものとする。教職に関する科目においては、「教育課程論(カリキュラムマネジメントを含む)」、「教育の方法と技術1」、「生徒指導・進路指導の理論と方法」を通して、現在社会に求められている知識・技能や、その探究に必要な姿勢を生徒たちに身に付けさせるための授業の進め方や指導方法を習得する。また、「教育の方法と技術2(ICTの活用を含む)」を学び、中学校理科教育における情報通信技術の活用方法を習得する。 |
| | 6セメスター | 2年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力をさらに高める。教職に関する科目として、「教育実習指導1」を通して、教育実習の意義・目的について理解するとともに、教科教育法における模擬授業等を通して、教育実習に向けての授業力を身に付ける。「教育相談(カウンセリングを含む)」「特別活動の理論と実践」では、生徒理解と支援の方法を身に付けるとともに、生徒の心情や行動を理解する力を培う。学位プログラムにおいて「物理学実験II」を学び、物理学で学んだ理論や法則を、実験を通して体験的に習得し、これを確実なものとする。 |
| 4年次 | 7セメスター | 3年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力・応用力の確認をする。教育実習を通して、これまでに学習したことを学校現場で実際に応用・検証することで、教育の目的や教職の意義等についてより深く理解する。また、実際に教育に携わり、生徒と関わる中で、奉仕の精神を持って人や社会への貢献を目指すことが出来るようになる。学位プログラムにおける、「卒業研究Ⅰ」において、未知のものを追及したり、探求することを実践して、理科指導における思考法や判断力を身につける。 |
| | 8セメスター | 教職課程での学習および教育経験を振り返り、教職に関して継続して探求する態度を身に付ける。教育実習を振り返り、自分の授業技術や教師としての資質等について深く考える態度を身に付ける。また、教育や教師としてのあり方について常に探求する態度を身に付ける。「教育実践演習(中高)」において、4年間での履修状況を踏まえ、教師として必要な知識・技能を修得したことを確認する。さらに、学位プログラムにおける、「卒業研究Ⅱ」において、1年間のまとめを行うとともに、その成果を発表することで、自らの成果を表現することを身につける。 |

様式第7号ウ（教諭）

<理工学部理工学科数物理学系>（認定課程：高一種免（理科））

(2) 具体的な履修カリキュラム

| 履修年次 | | 具体的な科目名称 | | | | |
|------|------------|--------------------------------|-------------------|----------------------|---------------------|-----------------|
| | | 各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等 | 教科に関する専門的事項に関する科目 | 大学が独自に設定する科目 | 施行規則第66条の6に関する科目 | その他教職課程に関連のある科目 |
| 年次 | 時期 | | | | | |
| 1年次 | 1 Semester | 教育原理 | 基礎力学 | | 健康スポーツI | フレッシュャーズセミナー |
| | | | 生物学総論I | | 総合英語(オーラルコミュニケーション) | |
| | | | 地学総論I | | KGU情報基礎演習 | |
| | 2 Semester | 教職論(チーム学校を含む) | 生物学総論II | | 健康スポーツII | フレッシュャーズプロジェクト |
| | | 学校の制度 | 地学総論II | | 総合英語(リスニング) | |
| | | | | | | |
| 2年次 | 通年 | 理科教育法1 | | | | |
| | 3 Semester | 教育心理学 | 物理学総論I | 教職実地体験(指導を含む) | | |
| | | | 化学総論I | ESDGs(持続可能な開発のための教育) | | |
| | | | 理論電磁気学I | 道徳教育の理論と実践 | | |
| | 4 Semester | 特別支援教育 | 物理学総論II | | 憲法 | |
| | | 総合的な学習の時間の指導法 | 化学総論II | | | |
| | | | 解析力学 | | | |
| 3年次 | 通年 | 理科教育法2 | | | | |
| | 5 Semester | 教育課程論(カリキュラムマネジメントを含む) | 熱・統計力学I | | | |
| | | 教育の方法と技術1 | 量子力学I | | | |
| | | 教育の方法と技術2 (ICTの活用を含む) | 物理学実験I | | | |

| | | | | | | |
|-----|------------|------------------|---------|--|--|--|
| | | 生徒指導・進路指導の理論と方法 | | | | |
| | 6セメ スター | 教育実習指導1 | 物理学実験II | | | |
| | | 特別活動の理論と実践 | | | | |
| | | 教育相談(カウンセリングを含む) | | | | |
| 4年次 | 7セメ スター | 教育実習指導2 | | | | |
| | | 教育実習1 | | | | |
| | | | | | | |
| | 8セメ スター | 教職実践演習(中高) | | | | |

様式第7号ウ（教諭）

<理工学部理工学科数物理学系>（認定課程：中一種免(理科)）

(2)具体的な履修カリキュラム

| 履修年次 | | 具体的な科目名称 | | | | |
|------|------------|--------------------------------|-------------------|----------------------|---------------------|-----------------|
| | | 各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等 | 教科に関する専門的事項に関する科目 | 大学が独自に設定する科目 | 施行規則第66条の6に関する科目 | その他教職課程に関連のある科目 |
| 年次 | 時期 | | | | | |
| 1年次 | 1 Semester | 教育原理 | 基礎力学 | | 健康スポーツI | フレッシュャーズセミナー |
| | | | 生物学総論I | | 総合英語(オーラルコミュニケーション) | |
| | | | 地学総論I | | KGU情報基礎演習 | |
| | 2 Semester | 教職論(チーム学校を含む) | 生物学総論II | | 健康スポーツII | フレッシュャーズプロジェクト |
| | | 学校の制度 | 地学総論II | | 総合英語(リスニング) | |
| | | | 化学実験 | | | |
| 2年次 | 通年 | 理科教育法1 | | | | |
| | 3 Semester | 教育心理学 | 物理学総論I | 教職実地体験(指導を含む) | | |
| | | 道德教育の理論と実践 | 化学総論I | ESDGs(持続可能な開発のための教育) | | |
| | | | | | | |
| | 4 Semester | 特別支援教育 | 物理学総論II | | 憲法 | |
| | | 総合的な学習の時間の指導法 | 化学総論II | | | |
| | | | | | | |
| 3年次 | 通年 | 理科教育法2 | | | | |
| | 5 Semester | 教育課程論(カリキュラムマネジメントを含む) | 生物学実験 | | | |
| | | 教育の方法と技術1 | 地学実験 | | | |
| | | 教育の方法と技術2(ICTの活用を含む) | 物理学実験I | | | |

| | | | | | | |
|-----|------------|------------------|---------|--|--|--|
| | | 生徒指導・進路指導の理論と方法 | | | | |
| | 6 Semester | 教育実習指導1 | 物理学実験II | | | |
| | | 特別活動の理論と実践 | | | | |
| | | 教育相談(カウンセリングを含む) | | | | |
| 4年次 | 7 Semester | 教育実習指導2 | | | | |
| | | 教育実習1 | | | | |
| | | 教育実習2 | | | | |
| | 8 Semester | 教職実践演習(中高) | | | | |

様式第7号ウ

<情報学部情報学科> (認定課程:高一種免(情報))

(1)各段階における到達目標

| 履修年次 | | 到達目標 |
|------|--------|--|
| 年次 | 時期 | |
| 1年次 | 1セメスター | 入学時のオリエンテーションにおいて、教職課程の概要を理解する。教職に関する科目では、「教育原理」を学ぶことで教育に関する基礎理論を理解する。学位プログラムにおいては、「情報学基礎セミナー」等の導入教育科目において、社会的ルールの遵守等を含む倫理的な精神、情報収集の方法やレポートの書き方等、大学での学習に必要なスキルを修得する。教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の「総合英語(オーラルコミュニケーション)」「KGU情報基礎演習」等において、現代社会におけるコミュニケーションの基礎となる学力や情報整理能力を高め、「健康スポーツ」を通じて、チームワーク、他者との協働、コミュニケーション能力を養う。また、「情報倫理」「プログラミング[アルゴリズム論]」を履修し、情報科教諭として生徒に模範を示すための情報倫理や基礎的なプログラミングスキルを身に付ける。これにより、教育と情報学の双方の基礎的知識を修得することを目指す。 |
| | 2セメスター | 各自の専門領域および高等学校情報科についての理解を深める。教職に関する科目では、「教職論(チーム学校を含む)」を学ぶことで、教職の意義や教員の役割、チーム学校運営への対応を含む職務内容について理解する。また「学校の制度」を学ぶことを通じて、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項を理解する。特に、学校と地域との連携や学校安全への対応についても把握する。学位プログラムでは、「情報システム論」「ネットワーク工学」で情報システムおよび情報通信ネットワークの基礎を学び、「情報学基礎プロジェクト」でチーム活動を通じて課題解決力と協働力を高める。これらにより、高等学校情報科教諭として必要な幅広い知識とスキルを養う。 |
| 2年次 | 3セメスター | 教師として必要な基礎的能力を身に付けるとともに、教職に関する応用力を高める。また、各自の専門領域および各分野に関する一般的知識を身に付けるとともに、選択科目において、情報科の専門知識と多面的・多角的視野を身に付ける。教職に関する科目においては、「教育心理学」を通して、生徒の心身の発達及び学習の過程を理解する。また、「道徳教育の理論と実践」を学び、道徳や倫理が教育に果たす役割を理解する。学位プログラムの「人工知能演習」では、人工知能の基本的な考え方を学び、情報科指導における応用力を高める。「メディア論」では情報化指導に必要なマルチメディア表現・マルチメディア技術について学ぶ。 |
| | 4セメスター | 教師として必要な基礎的能力と応用力を高める。また、情報科とその教育に関する専門的知識をさらに向上させる。専門科目を学び、専門的知識と多面的・多角的視野を向上させる。 教職に関する科目においては、「特別支援教育」を通して、特別な支援を必要とする生徒に対する理解を深める。また、「総合的な学習の時間の指導法」を学び、総合的な探求の時間の指導法を修得する。学位プログラムの「KGUデジタル社会基礎」「情報セキュリティ」、その他の履修科目を通して、高等学校教育課程で分かりやすい授業を進めるのに必要となる学識を養成する。教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の「憲法」を通じて日本国憲法の本質を含む幅広い教養を身につける。 |

| | | |
|-----|--------|---|
| 3年次 | 5セメスター | 2年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力を高める。各科目の専門科目と実験科目が多く設置されているので、各自の興味を伸ばし、学ぶことの面白さへの理解を深める。また、専門科目から、情報科が社会に対して多大なる貢献をしていることを、一層理解する。「情報科教育法」では、学習指導要領の意義、教科書と副教材の位置づけ、および学習指導要領における高等学校情報科の目標と各単元の内容を理解するとともに、科学的で論理的な思考とは何かを理解し、発問・試験作問できる力を養う。学位プログラムでは「人間・脳情報学Ⅰ」を学び、情報学分野の専門科目を履修する。これにより、情報技術の応用や最新技術に関する知識を深めるとともに、情報科教育で必要となる高度な専門性を身に付ける。教職に関する科目においては、「教育課程論(カリキュラムマネジメントを含む)」、「教育の方法と技術1」、「生徒指導・進路指導の理論と方法」を通して、現在社会に求められている知識・技能や、その探究に必要な姿勢を生徒たちに身に付けさせるための授業の進め方や指導方法を習得する。また、「教育の方法と技術2 (ICTの活用を含む)」を学び、高等学校情報教育における情報通信技術の活用方法を修得する。 |
| | 6セメスター | 2年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力をさらに高める。教職に関する科目として、「教育実習指導1」を通して、教育実習の意義・目的について理解するとともに、教科教育法における模擬授業等を通して、教育実習に向けての授業力を身に付ける。「教育相談(カウンセリングを含む)」「特別活動の理論と実践」では、生徒理解と支援の方法を身に付けるとともに、生徒の心情や行動を理解する力を培う。 |
| 4年次 | 7セメスター | 3年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力・応用力の確認をする。教育実習を通して、これまでに学習したことを学校現場で実際に応用・検証することで、教育の目的や教職の意義等についてより深く理解する。また、実際に教育に携わり、生徒と関わる中で、奉仕の精神を持って人や社会への貢献を目指すことが出来るようになる。学位プログラムにおける、「卒業研究Ⅰ」において、未知のものを追及したり、探求することを実践して、情報科指導における思考法や判断力を身につける。 |
| | 8セメスター | 教職課程での学習および教育経験を振り返り、教職に関して継続して探求する態度を身に付ける。教育実習を振り返り、自分の授業技術や教師としての資質等について深く考える態度を身に付ける。また、教育や教師としてのあり方について常に探求する態度を身に付ける。「教育実践演習(中高)」において、4年間での履修状況を踏まえ、教師として必要な知識・技能を修得したことを確認する。さらに、学位プログラムにおける、「卒業研究Ⅱ」において、1年間のまとめを行うとともに、その成果を発表することで、自らの成果を表現することを身につける。 |

様式第7号ウ（教諭）

<情報学部情報学科>（認定課程：高一種免（情報））

(2)具体的な履修カリキュラム

| 履修年次 | | 具体的な科目名称 | | | | |
|------|------------|--------------------------------|-------------------|----------------------|---------------------|--------------------------|
| | | 各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等 | 教科に関する専門的事項に関する科目 | 大学が独自に設定する科目 | 施行規則第66条の6に関する科目 | その他教職課程に関連のある科目 |
| 年次 | 時期 | | | | | |
| 1年次 | 1 Semester | 教育原理 | 情報倫理 | | 健康スポーツI | 情報学基礎セミナー |
| | | | プログラミング[アルゴリズム論] | | 総合英語(オーラルコミュニケーション) | |
| | | | | | KGU情報基礎演習 | |
| | 2 Semester | 教職論(チーム学校を含む) | 情報システム論 | | 健康スポーツII | 情報学基礎プロジェクト |
| | | 学校の制度 | ネットワーク工学 | | 総合英語(リスニング) | |
| | | | | | | |
| 2年次 | 通年 | | | | | |
| | 3 Semester | 教育心理学 | 人工知能演習 | 教職実地体験(指導を含む) | | Project Based Learning 1 |
| | | | メディア論 | ESDGs(持続可能な開発のための教育) | | |
| | | | | 道徳教育の理論と実践 | | |
| | 4 Semester | 特別支援教育 | KGUデジタル社会基礎 | | 憲法 | Project Based Learning 2 |
| | | 総合的な学習の時間の指導法 | 情報セキュリティ | | | |
| | | ヒューマンコンピュータインタラクション | | | | |
| 3年次 | 通年 | 情報科教育法 | | | | |
| | 5 Semester | 教育課程論(カリキュラムマネジメントを含む) | 人間・脳情報学 I | | | |
| | | 教育の方法と技術 1 | | | | |
| | | 教育の方法と技術 2 (ICTの活用を含む) | | | | |

| | | | | | | |
|-----|------------|------------------|--|--|--|---------|
| | | 生徒指導・進路指導の理論と方法 | | | | |
| | 6 Semester | 教育実習指導1 | | | | |
| | | 特別活動の理論と実践 | | | | |
| | | 教育相談(カウンセリングを含む) | | | | |
| 4年次 | 7 Semester | 教育実習指導2 | | | | 卒業研究 I |
| | | 教育実習1 | | | | |
| | 8 Semester | 教職実践演習(中高) | | | | 卒業研究 II |